

令和5年度 釜利谷南小学校 学校経営計画

(1) 《釜利谷南小学校概要》

- 1 学校長 平野好子
- 2 副校長名 海邊浩明
- 3 所在地 横浜市金沢区釜利谷南四丁目12番1号
TEL 045(782)3630・3670
FAX 045(783)6049
- 4 交通 京浜急行 金沢文庫駅 より 徒歩 25分
または 京急バス 文7：関東学院大学行き
「パークタウン東」下車 2分
- 5 創立年月日 平成元年4月1日（開校）

6 校章



《校章制定の由来》 小松 正明氏 作成
1年生から6年生までの若木が健やかに伸びていってほしいという願いが込められています。
デザインの「6本のニレの木」は、6年生の子どもたちを意味し、伸びやかな「秋楡」の木々に子どもたちのイメージを重ねています。

7 校歌 「ウルムスのかどで」 作詞 塚本 邦雄 作曲 木下 大輔

- | | | |
|---|--|--|
| (1) かがやくあすに向き
まっすぐに生きて行こう
春空に枝さしかわす
われらはみなニレの若木
心はバラ色のあけぼの
行けルリ色の海のかなた | (2) りんりんとそびえよ
野生のエルムのこずえ
世界のはてを見はるかす
ひとりひとりのひとみに
数知れぬ花よひらけ
若草のにおう野の沖に | (3) 南にはさざなみ
北にはるかな山なみ
あすはひびけかどでの歌
ひまわりいろの未来に
われら若緑のウルムス
朝風にきらめけよ命 |
|---|--|--|

8 規模

- 学級数 17学級（1学年2学級、特別支援学級3組・4組・5組・6組・7組）
- 児童数 274名（令和5年4月28日現在）
- 職員数 校長 副校長 主幹教諭4名（含 養護教諭1名） 教諭15名
非常勤教諭3名 臨任教諭1名 事務1名
技能吏員4名 学校司書1名

学校 教育 目標	「友達を思いやり、友達とひびき合う心」 知・学び合う楽しさを知り、進んで課題解決に取り組む子 徳・人を思いやり、進んで行動する子 体・生命(いのち)を大切に、健やかな体をつくる子 公・進んでまちとかかわり、地域とともに生きる子 開・人とふれあい、視野を広げていく子				
	学校 概要	創立 35 周年	学校長 平野 好子	副校長 海邊 浩明	2 学期制
児童生徒数: 274 人		主な関係校: 釜利谷中学校 釜利谷小学校 高舟台小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	釜利谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○体験的な学習の中で他者と共同・協働しながら学習を進めるためのコミュニケーション能力 ○めあてに向かい主体的に学習に取り組むための情報収集・活用能力	釜利谷中学校 釜利谷小学校 高舟台小学校	人とのかかわりを大切にし、集団の中でお互いに認め合い、高め合おうとする子ども ○「人とのかかわり」「生きるための学び」「心と命」を大切にしたい指導を、全校の教育活動で具現化するように相互の情報交換を充実させ、意図的な場面設定を図る。 ○生徒の実態を把握して、「育成を目指す資質・能力」、「重点的取組分野」等に関する共通理解の推進を図る。 ○小中連携をさらに推進させて、小中合同授業研究会の開催や児童生徒交流日の実施を図る。

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと教職員、保護者、地域と共にチーム釜南小でインクルーシブ教育に向かう ①持続可能な教育活動の在り方の研究(働き方改革を意識した40分授業の検証) ②チーム学年経営強化推進校として(子どもたちを多くの教職員の目で見守り、指導する子に寄り添う体制づくり) ③多文化共生(個性の認め合いと心のバリアフリーについて) この三つの取組を学校HP等で学校教育活動をさらに充実させて発信していく。 子どもの学びと教員の研究の学びを積み重ねていくために、柔軟な対応力や判断力、レジリエンスを大事にしていく。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	①校内重点研究等を通して、一人一人が自らのめあてをもち、進んで学び合う力を育成するような授業づくりに努める。②基礎基本の定着を図るために、読み書きの習熟タイム、サポート学習、算数少人数指導などの個に応じた支援や、家庭との連携を充実させていくようにする。③チーム学年経営強化推進校として、教科分担制による学力の向上推進を図る。
担当 学習・学校評価委員会	
徳 豊かな心	①自分から「すすんであいさつする」ことを重点的に意識して、あいさつ運動を年間を通して行います。②縦割り活動を年間を通して行うことで、思いやりの気持ちを育みます。③道徳科で学習したことが日常につながるよう、指導計画、授業展開、掲示物等の工夫をします。④国際理解教室のIUIと連携しながら、多文化の理解と共生について子どもたちと考えていきます。
担当 児童支援委員会	
体 健やかな体	朝会時に、体幹と柔軟性を合わせて向上させていけるように姿勢体操の第一と第二を交互に行う。休み時間を利用してしっぽとりゲームなど運動に対する意欲を高めていく。ジョギングやなわとびに年間を通して取り組むとともに、運動が日常化するよう保護者への周知も図る。
担当 体育部	
公開 自分づくり教育(キャリア教育)	①地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者とのかかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②学年に応じて、地域住民や企業がかかわる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。③「SDGs」を意識することで、自分の生活だけが豊かになるのではなく、だれもが平等に豊かな生活が送れるようなくらしを創ろうとする心情を育てる。
担当 教務部	
いじめへの対応	①いじめが起らない学級づくりやSOSの出し方などについて研修を行い、学級経営にいかしていく。②いじめの早期発見のため生活アンケートやYPアセスメントを行う。また、児童支援専任が相談窓口になり、チームマネージャー、担任と連携を図りながら、いつでも保護者や児童が相談できる仕組みを整える。③事案については児童支援専任が中心になり、いじめ防止委員会で話し合い、迅速に組織的に対応をする。
担当 児童指導委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチームを組織し授業実践や実技研修等を実施するとともに、経験のある教職員が支えていけるようにする。②不祥事防止、コンプライアンス、児童指導、危機管理等の研修を計画的に実施する。③「働き方改革」に各組織において業務改善を心がける。持続可能な教育活動の在り方モデル校として量より質を高める40分授業の推進を図る。④人材育成としてミドルリーダーや主幹教諭、管理職の育成に取り組む。
担当 教務部・管理職	
児童指導	①年度初めに「釜南スタンダード」を全職員で共通理解し、児童に対して、共通した指導をしていく。また、年間を通して見直しをしていく。②職員会議や打ち合わせの中で児童の情報交換等を行い、事案に対しては児童支援専任が中心となり、全職員で組織的な対応をする。③児童に向けて、定期的に朝会や学級指導等で約束の確認等を行っていく。
担当 児童支援委員会	
特別支援教育	①配慮が必要な児童の個別の指導計画・教育支援計画を作成し、職員で共通理解をするとともに、関係機関とも連携を図りながら指導・支援を行う。また、保護者とも情報共有を密にしていく。②効果的な校内支援体制(特別支援教育部、学習サポート、心のサポート等)の構築を図る。③ユニバーサルデザインの視点に立ち、学習環境を整えていく。④インクルーシブ教育の実践をする。
担当 児童支援委員会	
地域連携 学校運営協議会	①学校運営協議会で保護者、地域、教職員が一体となる学校運営体制を整え、児童、生徒の健全育成に取り組む。②校内レンジャー、見守り隊、ウルムスサポート、地域ボランティアとの連携を今後も充実、継続していく。③学校説明会、HP(釜南日記)、お便り等を通して、学校からの発信力を強化する。
担当 教務部	
安全管理	①地震・火災・不審者侵入等、避難訓練や引き取り訓練を計画的に行い、実施後振り返りを行うことで改善を図る。②食物アレルギー児の対応を年度初めに全職員で研修確認する。③施設設備や教室等の安全点検を(1回/月)行う。
担当 保健安全委員会	

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「友達を思いやり、友達とひびき合う心」
 知・学び合う楽しさを知り、進んで課題解決に取り組む子
 徳・人を思いやり、進んで行動する子
 体・生命(いのち)を大切に、健やかな体をつくる子
 心・進んでまちとかかわり、地域とともに生きる子
 開・人とふれあい、視野を広げていく子

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

○体験的な学習の中で他者と共同・協働しながら学習を進めるためのコミュニケーション能力
 ○めあてに向かい主体的に学習に取り組むための情報収集・活用能力

具体化した資質・能力

○体験的な学習の中で他者と共同・協働しながら学習を進めるためのコミュニケーション能力
 ○めあてに向かい主体的に学習に取り組むための情報収集・活用能力

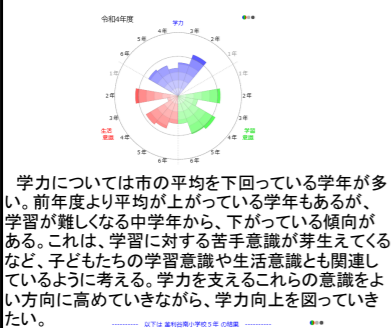
中期取組目標

・子どもたちと教職員、保護者、地域と共にチーム釜南小でインクルーシブ教育に向かう
 ①持続可能な教育活動の在り方の研究(働き方改革を意識した40分授業の検証)
 ②チーム学年経営強化推進校として(子どもたちを多くの教職員の目で見守り、指導する子に寄り添う体制づくり)
 ③多文化共生(個性の認め合いと心のバリアフリーについて)
 この三つの取組を学校HP等で学校教育活動をさらに充実させて発信していく。
 ・子どもの学びと教員の研究の学びを積み重ねていくために、柔軟な対応力や判断力、レジリエンスを大事にしていく。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①校内重点研究等を通して、一人一人が自らのめあてをもち、進んで学び合う力を育成するような授業づくりに努める。②基礎基本の定着を図るために、読み書きの習熟タイム、サポート学習、算数少数指導などの個に応じた支援や、家庭との連携を充実させていくようにする。③チーム学年経営強化推進校として、教科分担制による学力の向上推進を図る。
担当	学習・学校評価委員会

学力向上に関わる本校の状況



今年度の目標

友達と学び合う楽しさを知り、すすんで課題解決に取り組むこの育成を目指します。

目標を実現するための具体的行動プラン

① 校内重点研究等を通して、一人ひとりが自らのめあてをもち、すすんで学び合う力を育成するような授業づくりに努める。
 ② 基礎基本の定着を図るために、少数指導の拡充や教科担任制の取組で、複数の目によるきめ細かな支援や、読書活動、家庭との連携を充実させていく。

上半期

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①自分から「すすんであいさつすること」を重点的に意識して、あいさつ運動を年間を通して行います。②縦割り活動を年間を通して行うことで、思いやりの気持ちを育みます。③道徳科で学習したことが日常につながるよう、指導計画、授業展開、掲示物等の工夫をします。④国際理解教室のIUIと連携しながら、多文化の理解と共生について子どもたちと考えていきます。
担当	児童支援委員会

豊かな心に関わる本校の状況

本校の児童は、休み時間などクラスや学年の枠を超えて、一緒に活動することを楽しんでいる児童が多い。一方で、生活や学習の場面では、自分の考えを書いたり話したりして伝えることに苦手意識をもち、人との関わり方の弱い面も見られる。また、自己肯定感が低く、「自分のよいところはない」と考える児童もいる。そのため、互いに学び合う中で、自己表現し、交流する力を身に付けることで、成功体験を積み、自己肯定感を高める必要がある。
 本校では、継続的に教職員が声掛けをして、朝の校門での挨拶が増えていたが、ここ数年の感染症流行による大きな声を出して挨拶ができないことに加え、児童による集会や啓発運動が行いづらい状況にあり、挨拶する子としない子の差が顕著になってきている。挨拶は大切な習慣であることから、感染症の収束状況を見ながらあいさつ運動の取組を再開していく予定である。
 本校でも、外国籍や外国につながる児童が増加する傾向にある。子どもたちは国籍等に関係なく仲良く学校生活を行っているが、今後生活習慣や言語等の違いによる困難さが生まれる可能性がある。そこで、子どもたちが異文化を認め、互いに共生していこうとする心情を養っておく必要がある。

今年度の目標

あいさつをすすんで行い、同学年・異学年の友達とすすんでかかわり、自分や友だちを大切にすることを育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

・「自ら進んであいさつする」を目標とし、あいさつ推進のため、朝のピロティでの声掛けなど、教職員もすすんであいさつし、全校児童のあいさつの定着を図ります。
 ・友達を意識した言葉遣いを推進するため、「ふわふわ言葉」の奨励・定着を図ります。
 ・いじめが起こらないような学級風土づくりについて研修を行います。また、いじめの早期発見のため、生活アンケートやYPAアセスメントを行い活用していきます。
 ・6年生がリーダーとなって縦割り活動を行い、高学年のリーダーとしての役割意識、グループ内で互いを思いやる気持ち、協力しようとする気持ちを育てます。また、異学年との関わりの中で、一人ひとりの自己有用感を高めます。
 ・日々の児童指導や、特別の教科道徳での学習等を通して、日常の自他の言動を振り返るなど、子どもの心を耕していきます。

上半期

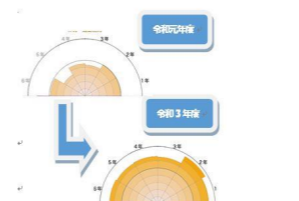
下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	朝会時に、体幹と柔軟性を合わせて向上させていけるように姿勢体操の第一と第二を交互に行う。休み時間を利用してしっぽりゲームなど運動に対する意欲を高めていく。ジョギングやなわとびに年間を通して取り組むとともに、運動が日常化するよう保護者への周知も図る。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

令和4年度の横浜市の体力テストの結果を見ると、どの学年も横浜市の平均をほとんど上回っています。全国的には、コロナ禍において、体力の低下が見られました。しかし、ここ3年間の釜利谷南小学校の記録では、コロナ禍になっても記録が落ちることなく、上昇傾向にあり、相対的に横浜市の平均を大幅に上回る結果となりました。本校では、様々な体育的行事(体力テストやスポーツフェスタなど)も工夫を止めるべく行ってきました。コロナでできないから中止とするのではなく、できる範囲で行ってきた成果ではないかと思われます。



今年度の目標

体育学習や様々な運動体験を通して、運動の楽しさを実感し、自ら進んで運動しようとする子どもを育てます。体を動かすことの習慣化を図り、体力の向上を目指します。

目標を実現するための具体的行動プラン

① 朝会の時に、姿勢体操第1・第2に取り組み、体幹や柔軟性、体力の向上に努めます。
 ② 休み時間は外遊びを推奨し、運動に対する意欲を高めていきます。ロング休みを活用し、体を動かす企画を立て、全校児童が体を動かす楽しさを味わえるようにしていきます。
 ③ 学級で長縄跳びに年間を通して取り組むとともに、運動が日常化するようしていきます。

上半期

下半期